

コンゴ共和国でポリオが流行

2010年11月9日 ProMED 情報(WHO、GAR)



コンゴ共和国ポアント・ノール Pointe-Noire を中心にポリオが流行し、11月9日現在、急性弛緩性麻痺(AFP)患者 184 名と死亡患者 85 名が報告されました。これまで 4 名が野生株ポリオウイルス 1 型によるものと確定診断され、引き続き検査が行われています。報告された患者と死亡患者の大部分は、15 歳以上の年齢層です。

今回のポリオウイルスの遺伝子配列は、隣接するアンゴラで流行しているポリオウイルスに最も類似していることが確認されています。コンゴ共和国での最後の国内発生患者は、2000 年でした。

ほぼすべての患者が湾岸都市ポアント・ノールから報告され、他にニアリ Niari から 5 名、ブエンザ Bouenza から 2 名、ブラザビル Brazzaville から 1 名、クイルー Kouilou から 2 名の患者が報告されています。

同国政府は住民に対し、ポリオ流行の注意喚起を行うとともに、世界保健機関(WHO)、国連児童基金(UNICEF)、米国疾病管理予防センター(CDC)を含む諸機関の協力を得て、緊急の対応を開始しました。ポアント・ノールとクイルーおよび隣接するアンゴラのカビンダ Cabinda 州の全住民に対しては 11 月 12 日より、コンゴ共和国内のその他の地域においては 11 月 18 日より 1 型一価経口ポリオワクチンの予防接種を開始する予定です。また、2 回の追加接種が計画されています。今後の流行状況により、さらにワクチン接種対象を拡大することも決定されています。

WHO は、中央アフリカ諸国においては、ポリオ輸入患者を早期に発見し、迅速に対応できるように、AFP 患者の監視体制を強化すべきであると述べています。また、コンゴ共和国とアンゴラを含むすべてのポリオ発生国に出入国する旅行者は、ポリオの予防接種を確実にしておくべきであるとしています。